

全農台湾事務所／台湾全農インターナショナル株式会社

台湾への輸出拡大に向けて

台湾の食肉事情と現地法人の取り組み

2018年4月、全農は台湾に現地法人の台湾全農インターナショナル株式会社（正式名称：台湾全農国際股份有限公司）を設立しました。同社は、台湾への食肉を含む日本産農畜産物の輸出拡大に向け業務を行っています。今号では台湾の食肉事情と、同社の取り組みについて紹介します。



台湾の食肉消費事情

台湾は3万6千km²（日本の約10分の1で、九州と同じくらい）の面積に、約2360万人の人口を有しています。

台湾での1人1年あたりの食肉消費量は、家禽肉（鶏肉など）、豚肉が日本の約3倍と比べていますが、牛肉は日本と大きく変わりません（図1）。家禽肉では、鶏も肉を煮た滷鶏腿や、むね肉を揚げた鶏排、また、細かく切った鶏肉をご飯に乗せた鶏肉飯はリーズナブルに町の食堂などで食べる事ができ、人気のメニューです。家禽肉（鴨・アヒルなどを含む）の消費量のうち約75%が台湾産で、残りの多くは米国から輸入されています。

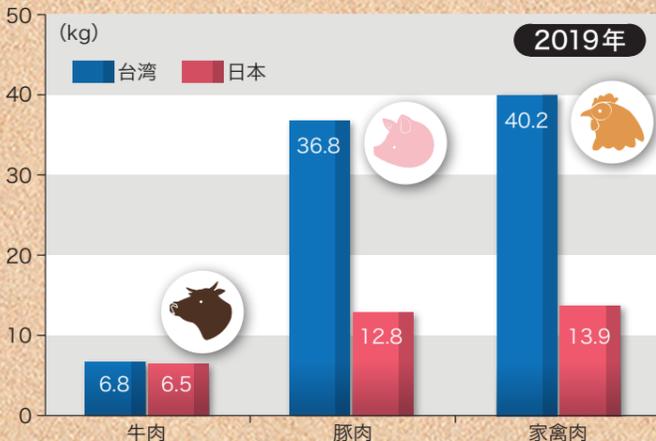


日本から台湾への食肉輸出

豚肉は歴史的に多く食べられており、頭から足の先まで食されます。豚足や豚の耳も売られており、豚の血ともち米を混ぜて蒸した猪血糕という食材も鍋物の具材などとして人気があります（写真1）。豚肉は消費量のうち約9割が台湾産で、残りはカナダ・スペイン・米国等から輸入されています。

牛肉は、豚肉や家禽肉と比べると消費量は多くありません。農耕用として牛が大事にされてきた歴史もあり、牛肉をまったく食べない方もいます。台湾での生産量は少なく、牛肉消費量の9割以上を米国や豪州から輸入しています。

図1.1人1年あたり食肉消費量



出典：台湾行政院農業委員会資料、農林水産省「食料需給表」
※1：「家禽肉」は、鶏・鴨・あひる・がちょう等を含む
※2：日本の数字は概算値

ていません。

豚肉も、日本での豚熱（CSF）の発生を受け、現在台湾への輸出が認められていません。

牛肉は、2001年に日本でBSEが発生した事を受けて、台湾への輸出が禁止されましたが、17年9月に、台湾政府当局が承認した食肉処理施設で処理された事、月齢30カ月未満である事などを条件として輸出が再開されました。以来、月間40〜60t程度が輸出されています（表）。

台湾へ輸出される牛肉のほとんどは和牛で、高級焼肉店など外食店舗で提供されています。台湾では、日本産和牛は豪州産Wagyuより高価ですが、多くの台湾の方が日本へ旅行している事もあり、本物の和牛の味を求める方に人気があります（写真2）。



台湾全農インターナショナルの取り組み

今年に入り、新型コロナウイルスの影響はあったものの、台湾では感染者は少なく（4月12日以来、12月7日現在、域内の感染事例は発生していません）、6月以降は前年を上回る牛肉が日本から輸出されています（図2）。これはいわゆるリベンジ需要の広がりによるものと考えられます。

全農は、日本産農畜産物の輸出拡大のため、海外拠点の設置を進めており、台湾には18年4月に現地法人の当社（台湾全農インターナショナル）を正式名称「台湾全農国際股份有限公司」を設立しました。当社は、米や青果物などの日本産農産物や加工品を輸入し、小売店や外食店舗に販売してい

ます。食肉（牛肉）については、輸入ライセンス取得のハードルが高い事、冷蔵・冷凍物流には一定の数量を取り扱う事が必要となるため、パートナー企業と連携し、日本産食肉の輸出拡大に取り組んでいます。

また、19年9月には台北市内に直営店舗「じゃじゃ」を開業。日本産農畜産物及び加工品を、台湾の消費者に直接お届けしています。和牛は、焼き肉用、鍋料理用といった用途に合わせて加工した商品を揃え、和牛ファンの方に喜ばれています。

新型コロナウイルスの影響から、台湾でもネットで購入物をする方が増えており、当社もネット販売を開始する予定です。牛肉についても、パートナー企業の物流機能を活用したネット販売を検討しています。



写真1. 豚の血ともち米を混ぜて蒸した「猪血糕（ズーシエガオ）」

写真2. 高級焼肉店の和牛料理の例（台北市内）

表.台湾における食肉需給状況(2019年)

(t)	生産量	輸入量	輸出量	供給量	供給量に占める生産量の割合
牛肉	7,186	158,043	681	164,550	4%
豚肉	849,608	130,055	3,098	970,590	88%
家禽肉	733,424	238,700	5,146	966,990	76%

出典：台湾行政院農業委員会資料
※「家禽肉」は、鶏肉のほか鴨肉・あひる肉・がちょう肉等の合計

図2.台湾向け牛肉輸出量



出典：財務省「貿易統計」



台湾全農インターナショナル株式会社の直営店舗「じゃじゃ」(写真上・店舗外観、下・店内)